

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

## 1. 名称 (他のプログラムと容易に区別できること)

岐阜勤労者医療協会みどり病院 家庭医療研修プログラム

## 2. プログラム責任者

氏名	西尾 大樹	指導医認定番号	2012-118
所属・役職	岐阜勤労者医療協会みどり病院		
所在地・連絡先	住所 〒501-3113 岐阜県岐阜市北山1丁目14番24号 電話 (058) 241-0681 FAX (058) 241-3728 E-mail nishio.daiki@gifu-min.gr.jp		
連絡担当者氏名*・役職	大橋 正和・みどり病院医局事務局		
連絡先*	電話 (058) 241-0681 FAX (058) 241-3728 E-mail masa0084@gifu-min.gr.jp		

\* プログラム責任者と別に連絡担当者がある場合にのみ記載

## 3. 専攻医定員

1年あたり ( 2 ) 名 (×研修期間年数=総定員 6名)

※総合診療専門研修ⅠおよびⅡにおいて、日本プライマリ・ケア連合学会専門医・認定医認定制度要綱28条に定める常勤指導医を、その部署で同時に研修する専攻医3名に対して1名以上配置できる人数に留めること。例えば、総合診療専門研修Ⅰが9カ月の場合、3名ずつが9カ月毎にローテートするならば、3年=36カ月のプログラムで1年あたり最大4名(36÷9=4)まで受け入れ可能となる。

## 4. プログラムの期間

( 3 ) 年間

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

## 5. 概要

### A. プログラムを展開する場や医療施設の地域背景や特長

みどり病院が加盟している岐阜民主医療機関連合会は共同組織（健康友の会・医療生活協同組合）を含む地域住民に支えられている。地域で開かれる健康班会への職員の参加やトリアージ訓練を地域の方々と共同して開催するなど地域住民との関わりを通して、地域の医療機関・家庭医に対するニーズを学ぶことができる。

外来カンファレンス・リハカンファレンス・薬事委員会など各事業所での定期的な取り組みにより、他職種と連携・協力をしながら研修を進めることができる。

高齢化率 30%超という当診療圏内の特徴を理解し、在宅・外来・病棟の継続的かつ包括的なケアの実践について習得できます。その中には保健予防活動や介護保険制度・各社会保障制度の理解と活用が含まれる。

### B. プログラムの理念、全体的な研修目標

#### 理念

患者のもつ様々な問題を研修医自身が把握し、その解決のために研修医自らが治療方針を決定できる総合的な家庭医としての力量を身につける。

#### 研修目標

- ① 地域医療の第一線を担う病院や診療所で、遭遇する疾患の基礎的な診断・治療法を修得する。
- ② 1 次救急から 2 次救急も含む幅広い症例に対し、自ら主体的に行動し、診断・治療に至るプロセスを学ぶ。
- ③ チーム医療の一員としてその責任と役割を持つことで、自己決定能力を身につける。
- ④ 教育的視点を持って、同僚、後輩、職員、医学生とともに成長しあうことができる。
- ⑤ 発生する様々な問題に対し、指導医・他職種とともに学習・実践する基礎的能力を身につける。
- ⑥ 地域の要求に応じて保健予防活動などに参加することで、地域の活動参画を重視する視点を身につける。
- ⑦ 地域との様々な協同をすすめ、地域医療に貢献する中で、リーダーシップを発揮することができる。

### C. 各ローテーション先で学べる内容や特色

みどり病院を拠点として、岐阜県内において家庭医療、内科、救急部門、小児科（小児保健）の比較的深い知識と技術の獲得を強調したローテーションスケジュールを組織する。高齢者の身体機能および認知機能に対してより深く理解できるよう精神科・リハビリテーション科の研修を選択できる。また、ローテート研修中も科の枠を超えた、訪問診療・外来・救急・研修会・学習会の時間を作り、総合的な能力の養成を目指す。

### D. 指導体制に関する特長

・1ヶ月に1回、指導医、看護師、研修担当事務で構成する研修検討委員会で研修を振り返り、研修医の研修到達の確認を行う。

・研修修了認定は、学会が示す専門医取得基準に準拠するポートフォリオの作成及び、研修検討委員会・病院管理委員会において総合的に判断する。

### E. 医療関係職種、保健・福祉関係職種、地域の住民、医療機関の利用者などの協力を得る方法

健康友の会という共同組織の存在は地域住民、医療機関の利用者という立場にあり、非常に協力を得やすい関係にある。地域では健康友の会を中心として健康づくりをはじめとした自主的なグループが「班」として組織されており、診療圏の事業所と深い関係をもっている。また法人内や関連法人に病院、診療所、訪問看護、居宅介護、訪問介護、介護施設をセットで所有しており、医療関係職種のみならず保健福祉関係職種との連携を取っている。

### F. その他

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

G. モデルとなるローテーション例

1年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	総診Ⅱ	総診Ⅱ	総診Ⅱ	総診Ⅱ	総診Ⅱ	総診Ⅱ	総診Ⅱ	総診Ⅱ	総診Ⅱ	総診Ⅰ	総診Ⅰ	総診Ⅰ
2年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	総診Ⅰ	総診Ⅰ	総診Ⅰ	総診Ⅰ	総診Ⅰ	総診Ⅰ	内科	内科	内科	内科	内科	内科
3年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	救急	救急	救急	小児科	小児科	小児科	その他	その他	その他	その他	その他	その他

※「総診Ⅰ」、「総診Ⅱ」、「内科」、「小児科」、「救急」、「その他」という表記で記入してください。

H. プログラムの全体構成（月単位の換算による）

総合診療 専門研修	総合診療専門研修Ⅰ ( 9 )カ月		総合診療専門研修Ⅱ ( 9 )カ月	
領域別 研修	内科 ( 6 )カ月	小児科 ( 3 )カ月	救急科 ( 3 )カ月	その他 ( 6 )カ月

※救急科が兼任研修の場合の記載法：例えば内科8カ月、小児科4カ月の間週1回救急科研修したら、内科6カ月、小児科3カ月、救急科3カ月というふうに、本来の研修先の研修期間（この場合内科+小児科の12カ月）のうち救急科研修の期間をプログラムに必要な長さにとり、本来の研修先の研修期間（内科8カ月と小児科4カ月）は救急科研修の期間を減じた形（内科は8→6カ月、小児科は4→3カ月）で記載して下さい。

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

<b>6-1. 総合診療専門研修 I</b>				
研修施設名	こがねだ診療所		診療科名 ( 内科 )	
施設情報	<input checked="" type="checkbox"/> 診療所 <input type="checkbox"/> 病院		施設が病院のとき → 病院病床数 ( ) 床 診療科病床数 ( ) 床	
総合診療専門研修 I における研修期間			( 6 ) カ月	
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり			
※同一施設で3カ月以上ずつの2ブロックに分けることのみ可能。 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい。				
常勤の認定指導医の配置の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 配置あり <input type="checkbox"/> 配置なし → 特例申請 (※)			
※指導医の特例申請は、原則的に、へき地・離島と都道府県より法的に指定されている地区の施設においてのみ申請可能。				
指導医氏名 1	森 逸治	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	( 2015-0086 )
指導医氏名 2		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	( )
指導医氏名 3		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	( )
要件 (各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす ( <input checked="" type="checkbox"/> のように))				
<b>ケアの内容</b>				
<input checked="" type="checkbox"/> 外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど				
<input checked="" type="checkbox"/> 訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事				
<input checked="" type="checkbox"/> 地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加				
<b>施設要件</b>				
<input checked="" type="checkbox"/> 患者層：当該診療科において (施設全体ではない) 専攻医の経験する症例は、学童期以下が5%以上、後期高齢者が10%以上である。				
<input type="checkbox"/> 上記の患者層を施設としては満たすが、研修施設に小児科を有する。 研修診療科で小児を診る工夫・方法 ( )				
<input type="checkbox"/> 上記の要件を満たさないが、他の方法で研修を補完している。 具体的な補完方法 ( )				
<input checked="" type="checkbox"/> アクセスの担保：24時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている。 具体的な体制と方略 (医師・看護師が携帯電話を所持。時間外でも患者 (主在宅) との連絡が可能な体制を組んでいる。また後方基幹病院との連携による夜間・休日対応を行なっている。)				
<input checked="" type="checkbox"/> 継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する。 具体的な体制と方略 (1年間の研修期間を通して外来患者及び在宅患者の継続的なケアが可能である。)				
<input checked="" type="checkbox"/> 包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当。 具体的な体制と方略 (急性期・慢性期は外来診療。予防・健康増進は外来および健診。地域保健活動・緩和ケアは主に在宅において研修。また、共同組織が主催する地域の健康班会に講師等として参加することで健康増進の一助を担う。)				
<input checked="" type="checkbox"/> 多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する。 具体的な体制と方略 (訪問看護ステーション・ケアマネージャー等と常時連携し、勉強会やカンファレンスを定期的に行っている他、入院加療や精査が必要なケースは近隣の基幹病院等に紹介する。)				
<input checked="" type="checkbox"/> 家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する。 具体的な状況 (患者を中心に家族図を作成して家族関係を把握している。問題解決のために家族にアプローチする必要がある場合には介護福祉医療の各関係者も含めた合同カンファレンスを実施している。)				
<input checked="" type="checkbox"/> 地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する。 具体的な内容と方法 (健康友の会会員との交流、健康班会の実施、地域イベントへの積極的参加を行っている。)				
<input checked="" type="checkbox"/> 在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している。 それぞれの概ねの頻度 (患者家族と連絡を密にしつつ、必要に応じて臨時往診、在宅緩和ケアを提供している。)				
週当たり研修日数：( 5 ) 日/週				
※本研修 (総合診療専門研修 I) は週に4日以上行わなければならない。 ※休日は含まない。				
総合診療専門研修 I (本研修) の研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる領域別研修の内容とその日数 (週1日まで) ※並行して行う研修は内科、小児科は除く。				

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

内容	
日数	日/週

※研修施設が1箇所にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載すること。

<b>6-2. 総合診療専門研修Ⅱ</b>			
研修施設名	みどり病院	診療科名 ( 内科 )	
施設情報	病院病床数 ( 99 ) 床	診療科病床数 ( 55 ) 床	
総合診療専門研修Ⅱにおける研修期間		( 9 ) カ月	
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり (分割について具体的に記入してください。)		
常勤の認定指導医の配置の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 配置あり <input type="checkbox"/> 配置なし → 特例申請 (※)		
<small>※指導医の特例申請は、原則的に、へき地・離島と都道府県より法的に指定されている地区の施設においてのみ申請可能。</small>			
指導医氏名 1	西尾 大樹	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号 ( 2012-118 )
指導医氏名 2		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号 ( )
指導医氏名 3		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号 ( )
要件 (各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす ( <input checked="" type="checkbox"/> のように))			
<b>ケアの内容</b>			
<input checked="" type="checkbox"/> 病棟診療：病棟は臓器別ではない。主として成人・高齢入院患者や複数の健康問題(心理・社会・倫理的問題を含む)を抱える患者の包括ケア、緩和ケアなどを経験する。 <input checked="" type="checkbox"/> 外来診療：臓器別ではない外来で、救急も含む初診を数多く経験し、複数の健康問題をもつ患者への包括的ケアを経験する。			
<b>施設要件</b>			
<input checked="" type="checkbox"/> 一般病床を有する			
<input checked="" type="checkbox"/> 救急医療を提供している			
<b>病棟診療：以下の全てを行っていること</b>			
<input checked="" type="checkbox"/> 高齢者 (特に虚弱) ケア 具体的な体制と方略 (外来患者の約7割、入院患者の約9割が高齢者である。リハビリテーションスタッフを病棟に配置し、身体機能および認知機能の低下に対して早期から介入している。)			
<input checked="" type="checkbox"/> 複数の健康問題を抱える患者への対応 具体的な体制と方略 (各主治医が他科および他専門医にコンサルトを行い、問題解決にあたっている。)			
<input checked="" type="checkbox"/> 必要に応じた専門医との連携 具体的な体制と方略 (コンサルトによる専門医との連携。精神科は必要に応じて病棟リエゾンを開催。整形外科はコンサルトに対応し、1回/週の回診を実施。また全医師対象の救急カンファレンスを週1回行っている。)			
<input checked="" type="checkbox"/> 心理・社会・倫理的複雑事例への対応 具体的な体制と方略 (MSW、看護師、薬剤師、PT・OTの参加のもと、週1回の病棟カンファレンスを行っている。)			
<input checked="" type="checkbox"/> 癌・非癌患者の緩和ケア 具体的な体制と方略 (必要な加療と共に、特に高齢者や癌の患者に対して緩和ケアを実施できるよう、麻薬を含めた薬物の使用を行っている。訪問診療および訪問看護との連携により入院⇄在宅への移行をスムーズに実施している。)			
<input checked="" type="checkbox"/> 退院支援と地域連携機能の提供 具体的な体制と方略 (病棟配属のMSWや地域連携よろず相談室のスタッフと連携して行っている。)			
<input checked="" type="checkbox"/> 在宅患者の入院時対応 具体的な体制 (関連の診療所、特別養護老人施設、有料老人ホーム、障害者施設などからの入院以来を受けている。)			
<b>外来診療：以下の診療全てを行っていること</b>			
<input checked="" type="checkbox"/> 救急外来及び初診外来 具体的な体制と方略 (救急車による搬入は救急外来にて対応し、当日来院した患者は内科外来で診療している。)			
<input checked="" type="checkbox"/> 臓器別ではない外来で幅広く多くの初診患者 具体的な体制と方略 (臓器別ではなく、一般総合内科外来を通じて診療にあたっている。)			
<input checked="" type="checkbox"/> よくある症候と疾患 具体的な体制と方略 (咳、発熱、頭痛などよくある症状の患者割合が多く、全内科患者の18%にあたる。)			
<input checked="" type="checkbox"/> 臨床推論・EBM			

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

具体的な体制と方略（学習ツールとして「Up To Date」および「今日の診療」が使用可能な環境になっている。カンファレンスでも積極的に学習ツールを使い、臨床推論についても焦点をあてて検討している。）	
■複数の健康問題への包括的なケア 具体的な体制と方略（各専門医や院外の医療機関と連携をはかり包括的なケアを行っている。）	
■診断困難患者への対応 具体的な体制と方略（外来にて診断が困難であれば、入院による精査を実施している。）	
週当たり研修日数：（ 4 ）日／週 ※本研修（総合診療専門研修Ⅱ）は週に4日以上行わなければならない。 ※休日含まない。	
総合診療専門研修Ⅱ（本研修）の研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる領域別研修の内容とその日数（週1日まで）※並行して行う研修は内科、小児科は除く。	
内容	選択科目である精神科またはリハビリテーション科
日数	1日/週

※研修施設が1箇所以上にあたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載すること。

<b>6-3. 領域別研修：内科</b>			
研修施設名	岐阜県総合医療センター	病院病床数（ 590 ）床	診療科名（ 内科 ）
領域別研修（内科）における研修期間		（ 6 ）カ月	
指導医氏名	荒井 正純	臨床経験年数（ 28 ）年	専従する部署（循環器内科）
有する認定医・専門医資格	日本循環器学会専門医、日本心血管インターベンション治療学会専門医、日本内科学会認定医、日本神経学会専門医日本心臓リハビリテーション学会指導医		
指導医氏名	浅野 文祐	臨床経験年数（ 30 ）年	専従する部署（呼吸器内科）
有する認定医・専門医資格	日本呼吸器学会専門医・指導医、日本内科学会認定内科医、日本がん治療認定医機構認定医		
指導医氏名	清水 省吾	臨床経験年数（ 24 ）年	専従する部署（肝臓内科）
有する認定医・専門医資格	日本消化器病学会専門医、日本肝臓学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医・指導医、日本内科学会認定内科医・指導医		
指導医氏名	小田 寛	臨床経験年数（ 37 ）年	専従する部署（腎臓内科）
有する認定医・専門医資格	日本腎臓学会指導医・専門医、日本透析医学会指導医・専門医、日本内科学会指導医・専門医、日本循環器学会専門医		
指導医氏名	西田 浩	臨床経験年数（ 28 ）年	専従する部署（神経内科）
有する認定医・専門医資格	日本神経学会専門医、日本内科学会認定内科専門医、日本脳卒中学会専門医、日本老年学会専門医、日本頭痛学会専門医		
指導医氏名	大洞 尚司	臨床経験年数（ 28 ）年	専従する部署（糖尿病内科）
有する認定医・専門医資格	日本糖尿病学会専門医・指導医、日本内分泌内科専門医・指導医、日本内科学会専門医、日本内科学会認定医、日本静脈経腸栄養学会認定医		
要件（各項目を満たすとき、口を塗りつぶす（■のように））			
<b>ケアの内容</b>			
■病棟診療：病棟での主治医として主に内科疾患の急性期患者の診療を幅広く経験する。			
<b>施設要件</b>			
■医師法第16条の2および関係省令で定める基幹型または協力型臨床研修病院である。			
■内科病床数が50床以上ある。（ 220 ）床			
■内科常勤医が5名以上いる。（ 54 ）名			
■後期研修プログラムの認定に関する細則第9条(5)に定める指導医が病院全体として3名以上いる。（ 23 ）名			
週当たり研修日数：（ 5 ）日／週			
※本研修（内科）は週に4日以上行わなければならない。			
※休日は含まない。			
内科（本研修）の研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる領域別研修の内容とその日数（週1日まで）			

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

※並行して行う研修は総合診療専門研修Ⅰ・Ⅱ、小児科は除く。

内容	
日数	日/週

※研修施設が1箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載すること。

<b>6-3. 領域別研修：内科</b>			
研修施設名	協立総合病院	病院病床数 ( 434 ) 床	診療科名 ( 内科 )
領域別研修 (内科) における研修期間		( 6 ) カ月	
指導医氏名	田中 久	臨床経験年数 ( 29 ) 年	
有する認定医・専門医資格	日本てんかん学会臨床専門医、日本神経学会 (専門医)、日本内科学会 (総合内科専門医)、 日本脳卒中学会 (専門医)		
要件 (各項目を満たすとき、口を塗りつぶす (■のように))			
<b>ケアの内容</b>			
■病棟診療：病棟での主治医として主に内科疾患の急性期患者の診療を幅広く経験する。			
<b>施設要件</b>			
■医師法第16条の2および関係省令で定める基幹型または協力型臨床研修病院である。			
■内科病床数が50床以上ある。( 232 ) 床			
■内科常勤医が5名以上いる。( 30 ) 名			
■後期研修プログラムの認定に関する細則第9条(5)に定める指導医が病院全体として3名以上いる。( 19 ) 名			
週当たり研修日数：( 5 ) 日/週			
※本研修 (内科) は週に4日以上行わなければならない。			
※休日は含まない。			
内科 (本研修) の研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる領域別研修の内容とその日数 (週1日まで)			
※並行して行う研修は総合診療専門研修Ⅰ・Ⅱ、小児科は除く。			
内容			
日数	日/週		

<b>6-4. 領域別研修：小児科</b>			
研修施設名	岐阜勤労者医療協会 みどり病院	診療科名 (小児科)	
病院病床数	( 99 ) 床	診療科病床数	( 4 ) 床
領域別研修 (小児科) における研修期間		( 3 ) カ月	
指導医氏名	松井 一樹	臨床経験年数 ( 27 ) 年	
有する認定医・専門医資格	日本小児科学会認定医、日本アレルギー学会認定医		
要件 (各項目を満たすとき、口を塗りつぶす (■のように))			
<b>ケアの内容</b>			
■外来診療：指導医の下で初診を数多く経験し、小児科特有の疾患を含む日常的によく遭遇する症候や疾患の対応を経験する。			
■救急診療：指導医の監督下で積極的に救急外来を担当し、軽症・一次救急を中心に経験する。			
■病棟診療：日常的によく遭遇する疾患の入院診療を担当し、外来・救急から入院にいたる流れと基本的な入院ケアを学ぶ。			
<b>施設要件</b>			
■小児領域における基本能力 (診断学、治療学、手技等) が修得できる。			
■小児科の常勤医がいる ( 2 ) 名			
週当たり研修日数：( 5 ) 日/週			
※本研修 (内科) は週に4日以上行わなければならない。			
※休日は含まない。			
内科 (本研修) の研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる領域別研修の内容とその日数 (週1日まで)			
※並行して行う研修は総合診療専門研修Ⅰ・Ⅱ、小児科は除く。			

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

内容	
日数	日/週

※研修施設が1箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載すること。

<b>6-4. 領域別研修：小児科</b>			
研修施設名	みなと医療生活協同組合 協立総合病院	診療科名 (小児科)	
病院病床数	( 434 ) 床	診療科病床数	( 16 ) 床
領域別研修 (小児科) における研修期間		( 3 ) カ月	
指導医氏名	近藤 隆二	臨床経験年数 ( 34 ) 年	
有する認定医・専門医資格	日本小児科学会専門医		
要件 (各項目を満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす (■のように))			
<b>ケアの内容</b>			
■外来診療：指導医の下で初診を数多く経験し、小児科特有の疾患を含む日常的によく遭遇する症候や疾患の対応を経験する。			
■救急診療：指導医の監督下で積極的に救急外来を担当し、軽症・一次救急を中心に経験する。			
■病棟診療：日常的によく遭遇する疾患の入院診療を担当し、外来・救急から入院にいたる流れと基本的な入院ケアを学ぶ。			
<b>施設要件</b>			
■小児領域における基本能力 (診断学、治療学、手技等) が修得できる。			
■小児科の常勤医がいる ( 2 ) 名			
週当たり研修日数：( 5 ) 日/週 ※本研修 (内科) は週に4日以上行わなければならない。 ※休日は含まない。			
内科 (本研修) の研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる領域別研修の内容とその日数 (週1日まで) ※並行して行う研修は総合診療専門研修Ⅰ・Ⅱ、小児科は除く。			
内容			
日数	日/週		

※研修施設が1箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載すること。

<b>6-5. 領域別研修：救急科</b>			
研修施設名	岐阜県総合医療センター	病院病床数 ( 590 ) 床	年間救急搬送件数 (5,963) 件
指導医氏名	木山 茂	臨床経験年数 ( 21 ) 年	専従する部署 ( 救急外科 )
有する認定医・専門医資格	日本外科学会専門医、日本消化器外科学会専門医、日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医、		
指導医氏名	仁田 豊生	臨床経験年数 ( 21 ) 年	専従する部署 ( 救急外科 )
有する認定医・専門医資格			
ブロック研修、兼任研修のいずれかを選択し、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす (■のように)			
■ブロック研修 → 領域別研修 (救急科) における研修期間 ( 3 ) カ月			
□兼任研修 → どの研修と組み合わせるか ( ) 週当たり研修日数 ( ) 日、研修期間 ( ) カ月 ※兼任研修の場合、「5. 概要」の「H. プログラムの全体構成」の記載との整合性を保つこと			
要件 (各項目を満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす (■のように))			
<b>ケアの内容</b>			
■救急診療：外科系・小児を含む全科の主に軽症から中等症救急疾患の診療を経験する。			
<b>施設要件</b> (下記のいずれかを満たす)			
■救命救急センターもしくは救急科専門医指定施設			
■救急科専門医等が救急担当として専従する一定の規模の医療機関 (救急搬送件数が年に1000件以上)			
週当たり研修日数：( 5 ) 日/週 ※ブロック研修の場合のみ記入。 ※救急科 (本研修) は週に4日以上行わなければならない。			



受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

※休日含まない。

救急科（本研修）の研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる領域別研修の内容とその日数（週1日まで）  
※ブロック研修の場合のみ記入。  
※並行して行う研修は総合診療専門研修Ⅰ・Ⅱ、内科は除く。

内容	
日数	日/週

※研修施設が1箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載すること。

<b>6-5. 領域別研修：救急科</b>			
研修施設名	協立総合病院	病院病床数（ 434 ）床	年間救急搬送件数（ 2747 ）件
指導医氏名	小玉 祐介	臨床経験年数（ 12 ）年	専従する部署（ 救急部門 ）
有する認定医・専門医資格	なし		
ブロック研修、兼任研修のいずれかを選択し、口を塗りつぶす（■のように）			
■ブロック研修 →領域別研修（救急科）における研修期間（ 3 ）カ月			
□兼任研修 →どの研修と組み合わせるか（ ） 週当たり研修日数（ ）日、研修期間（ ）カ月 ※兼任研修の場合、「5. 概要」の「H. プログラムの全体構成」の記載との整合性を保つこと			
要件（各項目を満たすとき、口を塗りつぶす（■のように））			
<b>ケアの内容</b>			
■救急診療：外科系・小児を含む全科の主に軽症から中等症救急疾患の診療を経験する。			
<b>施設要件</b> （下記のいずれかを満たす）			
□救命救急センターもしくは救急科専門医指定施設			
■救急科専門医等が救急担当として専従する一定の規模の医療機関（救急搬送件数が年に1000件以上）			
週当たり研修日数：（ 5 ）日/週 ※ブロック研修の場合のみ記入。 ※救急科（本研修）は週に4日以上行わなければならない。 ※休日は含まない。			
救急科（本研修）の研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる領域別研修の内容とその日数（週1日まで） ※ブロック研修の場合のみ記入。 ※並行して行う研修は総合診療専門研修Ⅰ・Ⅱ、内科は除く。			
内容			
日数	日/週		

<b>6-6. 領域別研修：その他</b>						
研修領域	必修・ 選択別	ブロック・ 兼任の別	研修日数/週 (兼任の場合)	研修期間	研修施設名と 診療科名	指導医氏名
一般外科	□必修 ■選択	■ﾌﾞﾛｯｸ □兼任	( 5 ) 日/週	(1~3) カ月	協立総合病院 外科	中澤 幸久
整形外科	□必修 ■選択	■ﾌﾞﾛｯｸ □兼任	( 5 ) 日/週	(1~3) カ月	協立総合病院 整形外科	木村 和正
精神科/ 心療内科	□必修 ■選択	□ﾌﾞﾛｯｸ ■兼任	( 5 ) 日/週	(1~3) カ月	すこやか診療所	渡辺 貴博
産科婦人科	□必修 ■選択	■ﾌﾞﾛｯｸ □兼任	( 5 ) 日/週	(1~3) カ月	協立総合病院 産婦人科	山口 千穂
皮膚科	□必修 ■選択	□ﾌﾞﾛｯｸ ■兼任	( 1 ) 日/週	(1~2) カ月	協立総合病院 皮膚科	岩瀬 優子
泌尿器科	□必修 ■選択	□ﾌﾞﾛｯｸ ■兼任	( 1 ) 日/週	(1~2) カ月	協立総合病院 泌尿器科	日比 初紀
眼科	□必修	□ﾌﾞﾛｯｸ	( 1 ) 日/週	(1~2) カ月	協立総合病院	長屋 匡俊

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

	■選択	■兼任			眼科	
耳鼻咽喉科	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> フック <input checked="" type="checkbox"/> 兼任	( 1 ) 日/週	( 1~2 ) カ月	協立総合病院 耳鼻咽喉科	小川 和夫
放射線科 (診断・撮影)	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> フック <input type="checkbox"/> 兼任	( ) 日/週	( ) カ月		
臨床検査・ 生理検査	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> フック <input type="checkbox"/> 兼任	( ) 日/週	( ) カ月		
リハビリ テーション	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	<input checked="" type="checkbox"/> フック <input type="checkbox"/> 兼任	( 5 ) 日/週	(1~3) カ月	しずさと診療所	長谷川 真基
その他 (緩和医療科)	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	<input checked="" type="checkbox"/> フック <input type="checkbox"/> 兼任	( 5 ) 日/週	( 1~3 ) カ月	協立総合病院 内科	飯田 邦夫
その他 ( )	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> フック <input type="checkbox"/> 兼任	( ) 日/週	( ) カ月		

### 7. 専攻医の評価方法

※形式的評価と総括的评价を研修修了認定の方法も含めて具体的に記入してください。

※形式的評価 (評価頻度・評価者・評価方法)

ローテーション研修中は各診療科の指導医が日々のふりかえりや電子カルテシステムを活用した診療チェックなどでの形式的評価を行う。適時レクチャーを行う

1ヶ月に1回、指導医、看護師、研修担当事務で構成する研修検討委員会で研修を振り返り、研修医の研修到達の確認を行う。

※総括的评价 (評価時期・評価者・評価方法)

3年間を通してポートフォリオ作成というアウトカムを念頭において、モニタリングとサポートを定期的に行い、必要な指導や教育を行う。年に1回ポートフォリオ発表会を開催する。

※研修修了認定の方法 (総括的评价結果の判断の仕方・修了認定に関わるメンバー)

ポートフォリオを総合的に判断し、研修検討委員会において研修修了を認定する。

研修検討委員は指導医・プログラム責任者・病院看護管理者・研修担当事務責任者とする。

### 8. プログラムの質の向上・維持の方法

※質向上や維持のための情報源・その情報をどのように用いるか

- ①プログラム運営委員会(プログラム関係院所の代表者で構成)を年3回開催し、プログラムの質の向上・維持を図る。
- ②当プログラムで研修を受けた研修医からプログラムに対する評価をもらい、改善すべき点があればすみやかに対応し、次年度に活かす。
- ③学会、学習会などで最新の情報をつかみ、プログラムの向上に努める。
- ④岐阜県内や関係する団体内でプログラムを設けている研修施設と交流を深める。